

2020年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

■目次

①保育専攻	03
②コミュニティ福祉専攻	04
③教育支援部	05
④教育事業部	06
⑤学生支援部	07
⑥入試広報センター	08
⑦キャリア支援センター	09
⑧地域連携センター	10
⑨総務課	11
⑩教務課	12
⑪学生課	13
⑫図書館	14
⑬明の星学園生涯学習センター	15
⑭青森明の星短期大学国際交流センター	16

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ①保育専攻

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 教育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 再課程認定後のカリキュラムおよび授業内容の検証 表現研究発表会の運営及び内容の見直し 下北との遠隔授業による授業内容の精査と見直し。 保育実践演習の卒論発表方法の検討 付属幼稚園との連携活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保育実習指導Ⅲにて筆記試験、実技試験を実施し、学生の専門性の定着について具体的に図る。 コロナ禍による授業計画の変更、保育実習IBは学内実習で対応した。 コロナ禍により表現研究発表会は中止し、発表会のDVDを制作し、青森市内の保育園、幼稚園、認定こども園、また就職先や昨年度の意見交換会参加園等にも送付。 LIVE ONでの対面及び遠隔授業を滞りなく遂行できた。 保育実践演習の合同発表会の実施方法を検討中。 コロナ禍により付属への訪問が困難になり進まなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコロナ禍での実習対応を検討。 子ども英語実習Ⅰ・Ⅱの年次の見直し。 表現研究発表会については、従来の時期・内容等の変更による対応が課題。下北の学生は、次年度星美幼稚園での発表会を検討中。 保育実践演習の発表会について、青森と下北合同で行う方法を引き続き検討する。 コロナの収束状況によるが、連携が課題。
2. 学生支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 相談体制の強化 卒後支援の方法と具体策 資格取得に関する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱えている学生への早期対応、欠席状況の把握と家庭への連絡・連携を確実にを行う。 コロナ禍により卒後支援の懇談会等が中止となった。 おもちゃインストラクター講座は、今年度はコロナ感染の拡大状況を鑑み、実施できなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 卒後支援に関する現場のニーズの調査等。 今年度の講座の参加希望者が次年度に参加できるよう、日程等調整をはかる。
3. 研究・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 保育士養成に関する研究活動の推進 学生参加型による地域貢献活動 保育現場との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> 随時、保養協、他研修会等に関する情報提供を行った。 今年度は研修会への出張は皆無であったが、その代わりに出張では遠方でなかなか行けないところも含め、遠隔での研修会への参加が増えた。 コロナ禍により地域での活動が困難であった。 コロナ禍により、中止の案内を送付した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育士養成に関わる研究の推進が課題。 実習担当教員の実習指導者認定講習への参加が継続課題。 徐々に可能な活動を再開していく。 意見交換会の内容および方法を検討する。
4. 学生募集・広報	<ul style="list-style-type: none"> 専攻に関する広報の強化方法と具体策 高校への説明会・体験授業への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き保育専攻のPR・広報を積極的に行う。 イベント等のニュースリリースの徹底を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> YouTube「あけたん保育チャンネル」を開設し、授業や保育の魅力を発信していく。 動画のQRコード付きチラシを作成し、高校訪問やオープンキャンパス等で周知する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍における実習（学内実習含む）の学びの質の保証、現場との意見交換会の在り方が課題。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ②コミュニティ福祉専攻

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
下北キャンパスの授業充実	青森キャンパスと同等な質の保障	授業科目によっては対面が必要となり、下北キャンパスでの補講授業を実施した。	B	演習授業（介護コース）はライブオンで限界があるため対面授業の補講が必要である。（夏休み等の利用も検討）
ビジネスコース・カリキュラムの充実	ビジネスコースの教育目的により合致した科目の設置を検討する。	ビジネスコースの教育の要である、「簿記」「公務員養成」「英語」に関してカリキュラムの充実を図った。	A	更なる、ビジネスコース関連科目の検討が必要である。
国家試験受験体制	授業内での対応では不十分なため、後期より受験対策講座を開始する。	任意参加としたため、本来受けてほしい学生が受けず、学力が充分にある学生が積極的に受けるようになってしまった。	B	受験対策講座は任意とせず、必ず受けるようにしなければ合格に繋がらない。
新型コロナ対策	新型コロナ感染拡大防止の観点から様々な緊急対応が迫られている。可能な限り、教育の質を落とさないように対応する。	8～9月の介護実習中止とし学内での代替実習を実施した。 学内実習は厚生労働省発の指針を基に各実習のスケジュールと内容を何度も検討し、知識と技術の習得に努めた。	A	新型コロナが収束の見通しが立たない限り、代替実習の質の維持が必要である。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

ビジネスコースのカリキュラムの検討及び改善が継続課題である。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ③教育支援部

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 3つのポリシーと学修成果の関連性の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・DP・カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの継続検討を行う。 ・シラバスにDPを反映した項目を追加し、シラバスの形式変更を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DPとカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを作成した。 ・各教科のシラバスにDPを関連付けた項目を追加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム変更等の内容に応じて、作成物の内容を改定していく。
2. アクティブ・ラーニングの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する教科におけるアクティブ・ラーニング（以下ALと記す）実施状況をアンケート形式で調査する。 ・AL教室の活用促進のため、教室の使用方法について講習会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AL活用を取り入れた授業改善計画の提出により、ALの更なる活用を啓蒙する。 ・教室の活用は、限られた教員ではあるが活用されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する教科におけるアクティブ・ラーニング実施状況をアンケート形式で調査する。 ・AL教室の活用促進のため、教室の使用方法について講習会を設ける。
3. 学生管理システムおよび学生振返りシステムの活用啓蒙	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してポートフォリオ活用の啓蒙をする。各科目のレポート提出等での活用に加え、全体指導を定期的に行う機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各専攻・各科目担当よりポートフォリオへの入力啓蒙がなされた。年度初め、学期の中間、学期末に全体指導を行う機会を設けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きポートフォリオの活用を図る。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

3つのポリシーの見直しに合わせ、学習成果全体の見直しが課題。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ④教育事業部

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1 高大連携	① 青森中央高校・青森商業高校合同授業 ② 中里高校の授業参加 ③ 下北地区の合同授業 ④ 青森明の星高校連携授業	① 高校側からコロナ感染回避のため中止 ② キャリアサポートⅡ授業参加 ③ ・田名部高校にて講座を実施 ・田名部高校・大湊高校・大間高校 むつ工業高校合同授業（人数制限あり） ④ ・青森明の星高校生（入学決定者）を対象に 「情報リテラシーⅠ」を実施	B	②・③・④の項目は実施できたが、①を実施できなかったため、コロナ感染予防を徹底しながら高大連携事業を実施していく。
2 学内FD	① 学内FD実施 ② シェアリング実施	① ・学内FD週間を設定（録画） ・指定参観授業実施 ② ・指定参観授業に対するシェアリング実施（録画）	A	指定参観授業に参加できない教員のため録画を継続し全員参加できるようにする。
3. 共同FD	①青森中央短期大学・青森中央学院大学の共同FD実施	① ・2020年担当は青森明の星短期大学 ・講師は本学教員	A	コロナ感染予防のためオンライン（ZOOM、ライブオン）での実施であったが、感染状況に合わせた参加方法を検討していく。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍における高大連携の事業の継続について、引き続き検討していく。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑤学生支援部

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 学友会活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事（体育祭、学生祭、クリスマスの集い）の実施の有無と運営 サークル活動活性化のための支援 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍もあり、体育祭は中止となったが、学生祭やクリスマスの集いは、外部から人を入れない体制で実施に至った。 活動しているサークルは現在5団体であり、今年度の活動状況・収支決算の報告は問題なく終えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き行事については次年度も検討していく。 サークル活動については活動支援のための内規を作成し、活動の充実・周知を図っていきたい。
2. 学内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学内の環境整備 学生からの相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学生食堂、学生ラウンジ、空き教室を昼食の場として提供しているが自動販売機（飲料及び軽食）、電子レンジ、給湯ポットを学内に設置し学生の食生活に配慮した。一時、給湯ポットの不足が学生からの苦情として挙げられていたが、ポット数を増やし解決に至った。 学生相談室の相談件数は30件以上あり、延べ34人が利用していた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き学生への要望等を集め、満足度向上に向けて、整備していきたい。
3. 課外教育・活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 課外教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 本学には例年様々な団体・施設から年間30件以上のボランティア活動依頼があり、専攻を問わず多くの学生がこれらの活動に参加している。また、毎年、外郭団体からも活動援助を受け、コロナ禍で活動に制限があるものの、学友会行事に役立てることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、課外活動の検討をしていきたい。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

学生相談室からの報告について、件数、相談者数のみならず、相談内容の解決、満足度等についても点検・評価を加える。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑥入試広報センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 学生募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学長不在のまま新年度を迎えたが、新学長が決定し、理事会で減免等が承認され次第、広報活動を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、理事会が問題視した減免制度及び奨学金制度について、理事会が開かれなかったために一切広報できず、他大学に大きく遅れた。総合型I期のエントリー期間に入っても、学生募集要項ができていない状態だったが、何とか挽回し軌道に乗せた。 ・青森市内からの学生募集強化策として、青森西高、青森北高と協定を結んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集の広報活動開始が7月末スタートとなったことから入学者数が激減した。できる限り早期から広報活動を始動させたい。 ・ホームページのリニューアルとSNSを活用した広報にシフトする。
2. 入試改革対応	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜、特別選抜を除く全ての入試に小論文を追加・経験を問わず作題委員をほぼ教員全員とする。 ・一般選抜試験科目を「現代文」「現代社会」「英語」の3科目から2科目選択。 ※ただし、英語は筆記試験を行わず、英検等の外部民間資格試験の点数をCEFR対照表にて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりに実施した。ほぼ全ての教員が作題を担当することから、その啓蒙とクオリティの確保に配慮し、全ての作題会議に当センターが介入した。 ・一般選抜試験も計画どおりスムーズに実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題を公開していることから、特に、難易度を更に適切なものとする。具体的には、①高校生が自分にも挑戦できると感じる、②実際に解いてみると60分中、50分で書き終わり、残りの10分で見直す程度の時間配分となる、③平均点が6割程度の問題とする。
3. 新型コロナウイルス感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス(OC)開催に当たって、来校型対面形式が難しい場合は、ウェブを活用したコンテンツ配信の機会を増やす。 ・特待生選抜試験は、県をまたいでの参加ができないことが想定されること等から、試験日を設けず、総合型I期及び学校推薦(指定校)試験の偏差値をもとに総合的に判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省のガイドラインに沿ったコロナ対策を徹底した。 ・OCは、来校型対面式に加え、ZOOMやYouTubeを活用し開催した。また、対面式では、検温、体調申告シート、手指消毒、換気に加え、スタッフ、教職員がマスクとフェイスシールドを着用し万全を期した。 ・特待生選抜試験は、試験日を設けず、総合型I期及び学校推薦(指定校)試験の偏差値をもとに総合的に判断した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省のガイドラインに沿ったコロナ対策を更に徹底する。 ・本試験の偏差値による特待生の選考については、コロナ感染症の状況により判断する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

学生募集に関する広報活動全般について、できる限り早期から始動できるよう改善を図る。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑦キャリア支援センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 「キャリアサポートⅠ・Ⅱ」の授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 (火) 5校時 「キャリアサポートⅡ」の授業計画 ・後期 (月) 4校時 「キャリアサポートⅠ」の授業計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を実施した 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアサポートⅠ・Ⅱ」の授業は時期的な指導を考えるとこれまでのように通年で余裕をもって実施した方が良いのではないか(指導計画等ありそれを望むが、時間割表発表の時点でもうすでに設定済みであった)との声があった
2. 新卒者激励会についての中止を含めた開催検討	<ul style="list-style-type: none"> ・5月23日(土) 18:00～20:00 アルカディア市ヶ谷 ・6月20日(土) 11:00～14:00 ホテル青森 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢を鑑み中止とした 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での効果的な計画・開催を検討する
3. 合同就職説明会についての中止を含めた開催検討	6月27日(土) 13:30～16:00 場所 ジムナーズ・2201教室	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢を鑑み中止とした 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での効果的な計画・開催を検討する

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍により、新卒激励会及び合同企業説明会の中止となったが、コロナ禍での効果的な計画・開催の検討を行う。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑧地域連携センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 地域の発展を重層的に支える取組 ①浪打町会との連携 ②地元町会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例役員会に出席し学生へ主体的に参加を呼びかける ・ 港町ねぶたへの参加・協力、認知症徘徊訓練事業（相馬町）など学生が協働する機会を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浪打町会役員会へ参加し、今年度はコロナウイルス感染症のためイベントが中止となった。 ・ 港町ねぶた始め、認知症徘徊訓練もコロナウイルス感染症のため中止となった。 	/	<p>行事については、今後の感染症状況を見ながらリモート参加可能なもの等は学生へ周知したい。</p>
2. 青森創生人材育成・定着推進事業への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同就職セミナーや各種研修等への参加周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン開催の研修等は学生へ周知した。 		B
3. 下北キャンパスの円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学と下北キャンパスの連携と円滑な運営ができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下北キャンパス職員との連携 ・ 時間割による情報共有 	B	<p>次年度より専門部署を配置することで更なる充実を図る。</p>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍での地域連携の在り方、また学生の参加の工夫について、引き続き実施に向けた取り組みを行う。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑨総務課

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 会計業務	<ul style="list-style-type: none"> ・正確で迅速な会計処理を行う ・会計ソフトの活用拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本に立ち返り、伝票処理から出納まで正確に行うよう努めた。また、情報共有やダブルチェックも行い正確さを目指した。 ・会計ソフトの抽出、書き出し機能を生かし毎月の出金をデータ化し予算管理を行った。 	B	予算管理に関して計画的に実施するためにデータ等をさらに活用する。
2. 管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤簿の見直し ・出勤時間管理の適正化 ・福利面の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤の管理を時間管理に変更するため、出勤簿を個人ごと月ごとの様式に変更し、毎日勤務時間の記入を行うことにした。 ・勤務時間の適正化のため、残業などは先に申し出るなどの仕組みを作った。 ・産業医を外部に依頼し、職場環境等の改善を目指した。(衛生委員会の設置) 	A	勤務時間の把握、職場環境等のさらなる改善に引き続き取り組む。
3. 施設管理	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・来客受付にて来客者の氏名記入、体温チェック、手指消毒を行いウイルス感染の予防に努めた。 	B	ウイルス感染予防のための衛生管理等を継続する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

勤務時間・職場環境等の改善への取り組みを実施する。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑩教務課

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 履修等管理についての 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録等の事務処理を円滑に進め、確認作業等の迅速化とチェックの徹底を強化。 補講等の掲示を速やかに行うために継続して、各専攻、教育支援部と連携し、チェック体制の強化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に伴い、通常通りに履修登録の作業に取り組むことが出来なかったが、チェックの徹底を図り、学生の履修状況を把握することができた。 継続して教育支援部と連携し、事務処理作業を分担することでチェック体制の強化を図ることができ、速やかに下北キャンパスへも周知することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、履修登録に伴う事務処理作業の段取りを良くし、チェック体制の強化を図る。 引き続き、教育支援部と連携し、事務処理の効率化とチェック体制を強化し、速やかに取り組む。
2. 授業対応の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 授業対応が円滑に行えるよう各専攻や教育支援部などの各部署と連携し、取り組む。 今年度からスタートする下北キャンパスにおける授業対応について、各部署との連携を図りながら遂行できるように取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に伴い、教育支援部と連携を図りながら、学事歴の変更作業や非常勤講師への対応など授業対応を遂行することができた。 教育支援部や地域連携センター、下北キャンパス職員との連携を図りながら今年度初めての遠隔授業などの講義予定を成し遂げることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる事態に速やかに対応できるように教育支援部との連携の強化を図る。 引き続き、教育支援部や地域連携センター、下北キャンパスとの連携を保ち、教職協働を実践することで情報の共有化の強化を図る。
3. 文書管理についての 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 効率よく文書管理ができるように、文書処理に伴う事務の合理化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 文書処理の効率化を図り、遅延なく正確に文書処理を行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、文書処理に伴う事務の合理化を図るために、常に情報を共有し、事務処理全体の中で計画的に取り組む。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍での突発的な休講・変更等への対応に加え、新たに下北キャンパスに関する対応等について、引き続き情報共有・連携を行う。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑪学生課

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 奨学金事務作業	・学生への適切な指導	・学生支援機構奨学金については、説明会を設けることができたが、申込手続の段階で下北キャンパス生と直接やりとりする必要がある。締切を考慮して、下北キャンパスでの対応も行った。その他の奨学金については、掲示による募集や配付形式を取った。個別に対応することになったが、適切に対応できた。	A	・下北キャンパス生の来校日を把握し、締切前に手続きが完了するよう段取りを組む必要がある。 ・奨学金の募集に関しては掲示による募集が中心となっているので、学生の見落としが無いよう配慮する。
2. 授業料等減免費交付金事務作業	・学生への適切な指導	・授業料等減免費交付金の申請業務については、掲示による募集を行い、窓口での個別対応を行った。	A	・奨学金と同様に掲示による募集が中心となっているので、学生の見落としが無いよう配慮する。
3. 日常的な学生支援	・コミュニケーションを通し、話しやすい環境づくり	・上記1. 2. 等を行うに当たり、最も力を入れた項目になる。原則として、学生とのコミュニケーションを主体としたが、下北キャンパスと直接コミュニケーションを図れる機会が限られるため不足気味となり、電話・メール・郵送などの手段も用いた。提出・入力の不備については概ね守れた。	B	・継続・自己研鑽が必要な内容であるので、継続し努力する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

奨学金等について、組織的・計画的なサポート体制を図る。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑫図書館

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 図書館事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・企画（新規・既存）の充実 ・図書館利用に関するアンケート調査の結果の開示 ・県内の大学図書館との連携事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の3つの企画（ブックハンティング、読書感想文コンクール、ビブリオ・バトル）は実施したが、参加者募集に苦労した。 ・全学生を対象にアンケート調査を実施し、図書館利用に関する意見、要望を把握することができた。 ・コロナ禍により、他大学の図書館の状況を把握することが難しく、連携事業はできなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・課題となった参加者の募集については学生に向けて情報発信を強化していく。 ・アンケート結果を踏まえ、利用者数の減少を改善する方策を考え、図書館利用の促進に努める。 ・他大学図書館との連絡を密にし、情報の共有を図る。
2. 教育・学修支援の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者との連携による学修支援の協働体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者から授業に関連する参考図書・指定図書の要望があり、各コーナーを設けた。これにより図書館利用が促進された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者との連携を強化し、指定された図書資料の設置方法や学生への周知を工夫する。 ・館員のレファレンス・サービスの向上を図る。
3. 図書資料の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・書架整備 ・蔵書点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が図書検索や閲覧をしやすいように館内の配架整理を実施した。 ・蔵書点検では除籍規程に則り、対象の図書資料の除籍を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に蔵書点検を行うことで、書架や図書・資料が整備する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

学内の図書館利用の向上のため、図書館利用に関する意見、要望に対し、具体的な改善を行う。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑬明の星学園生涯学習センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. センター講座	<ul style="list-style-type: none"> ・「懐かしの歌を歌う」を開設する。 ・講座の周知を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「懐かしの歌を歌う」の開講を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止とした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を考え、「懐かしの歌を歌う」が開講できるように努める。
2. 教育カウンセラー養成講座及び教員免許状更新講習	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の講座・講習を計画通り実施する。 ・次年度の内容と講師を選定し依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教員免許状更新講習を計画通り実施した。 ・次年度の内容と講師を選定し依頼した。 ・教育カウンセラー養成夏季講座は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止し、秋季講座は、感染対策を講じて実施した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・定員減と座席の配置の工夫などで、受講環境を整え、コロナ対策を徹底して、講座・講習を運営する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍における感染予防の徹底、また実施内容および実施方法の可能性等についても検討していく。

2020年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑭青森明の星短期大学国際交流センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 各種留学・研修プログラムの提案及び実施	<ul style="list-style-type: none"> ・米国ハワイ州にある本学協定校のカピオラニ・コミュニティ・カレッジ (KCC) とのダブルデGREEプログラム (1+1プログラム) 及び短期留学プログラムの周知を図るとともに希望者に対しては、留学内容、諸経費、渡航手続き等の説明を行い、全面的にサポートする。 ・学生の希望に応じた語学研修プログラムを提案し、学生の自己実現に向けたサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KCC への留学希望者に対して、留学内容、諸経費等の説明を行い、留学の準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各種留学及び海外研修は、すべて中止となった。 ・2019年度に、KCC に送り出した2名の学生は、コロナ禍の影響により、2020年4月に帰国した。1+1プログラム在籍の1名は、帰国後 KCC のオンライン授業を受講した。短期英語集中プログラム在籍の1名は、留学を途中で切り上げた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの状況を鑑みながら、各種留学に関する情報提供及び個別相談をきめ細かに行う。 ・各種留学及び海外研修の実施の可否については、決まり次第、掲示及び口頭で全学生に周知する。
2. 青森・長春教育芸術文化交流協会 (青森長春会) の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会・総会・懇親会の準備を進めると共に会員間の交流を深める。 ・会員増加につながる魅力ある広報紙 (第20号) 作りを目指す。 ・青森長春会の奨学金支給中国人学生を選考すると共に当該留学生との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、総会等は、開催できなかったが、各種議案については、書面による決議を行い、その結果を全会員に周知した。 ・姉妹提携校の長春人文学院 (旧称東北師範大学人文学院) からの3千枚のマスク贈呈の記事を掲載するなど、魅力ある広報紙の発行に努め、会員をはじめ関係部署等に送付した。 ・青森市内の中国人留学に面接を実施し、良好な結果であったことから、奨学金を支給した。交流に関しては、コロナ禍の影響で実施できなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における本協会の活動を柔軟に行う。 ・奨学金支給対象の中国人留学生の選考基準の見直しを行う。

※評価=「達成:A」「概ね達成:B」「やや不十分:C」「不十分:D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍で留学等の見通しが立たない中、各種研修プログラム等の遠隔での実施・可能性などについても検討していく。